



2026年2月18日

日本鉄道労働組合連合会

## JR北労組「第23回中央委員会」 魅力と働きがいのある職場の構築を!

JR北労組は2月7日、かかる2・7において第23回中央委員会を開催し、2026春季生活闘争方針をはじめとする当面の活動方針を満場一致で決定した。

人見圭一中央執行委員長（JR連合副会長）は、冒頭のあいさつで、最優先課題である安全確立に向けた想いを強く訴えかけるとともに、「2026春季生活闘争」「組織課題の解決」「JR北海道の経営課題・政策課題」「政治との連携」について所信を表明し、JR連合への総結集の必要性を参加者に呼び掛けた。

JR連合から参加した今井孝治事務局長は、不安全事象に対する職場の感度を高めるよう求めるとともに、今年も成果にこだわった春季生活闘争を展開すべく檄を発した。また、投票日を直前に控えた衆議院総選挙に触れ、政策・政治の取り組みの必要性を訴えた。

議事では、執行部から「ベースアップ12,000円」や、賃金・労働条件の改善等に関する要求などを盛り込んだ2026春季生活闘争方針をはじめとする当面の活動方針（案）が提起された。続いて、数名の中央委員が発言に立ち、安全問題への提言や、除雪の業務課題などの意見が出された。その後、執行部からの中間答弁、斎



人見中央執行委員長

藤洋治郎書記長による総括答弁を経て、全ての議案が満場一致で採択された。

最後に、委員会宣言を採択し、人見委員長の力強い団結がんばろうで閉会した。